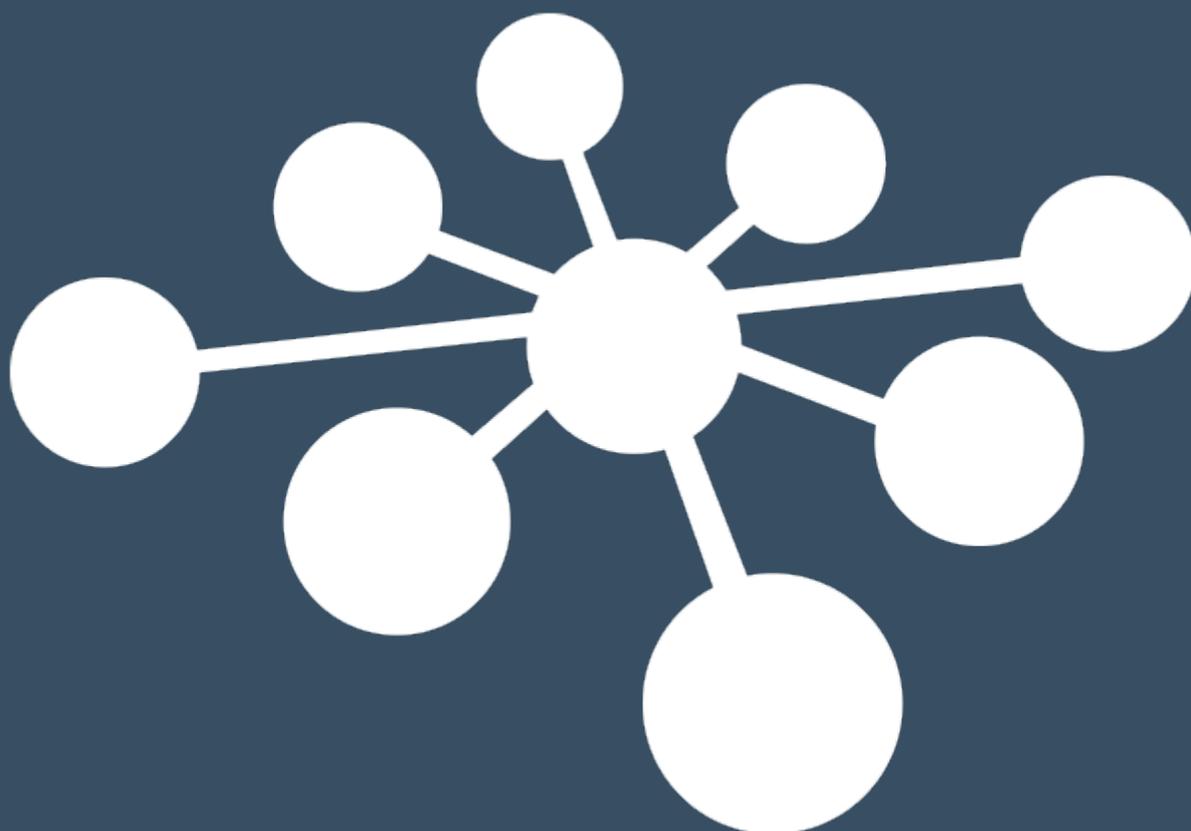


取扱説明書

OtoAccess[®] データベース



目次

1 はじめに	1
1.1 本取扱説明書について.....	1
1.2 使用目的.....	1
2 安全上の注意事項(警告、注意、注記)	2
2.1 通信の安全性.....	2
2.2 バックアップ.....	3
2.3 セキュリティーとデータアクセス.....	3
2.4 認証情報.....	3
3 ハードウェアとソフトウェア要件	4
3.1 .NET Framework.....	4
3.2 Windows PowerShell.....	4
3.3 ハードディスク.....	4
3.4 モニター.....	4
3.5 メモリー.....	4
3.6 プロセッサー.....	4
3.7 オペレーティングシステム.....	4
3.8 SQL Server.....	5
3.9 安全な接続.....	5
4 インストール	6
4.1 セットアップ.....	6
4.1.1 インストールタイプ.....	7
4.1.1.1 クライアントのみ.....	8
4.1.1.2 スタンドアローン.....	8
4.1.1.3 サーバー.....	9
4.1.2 データベース管理.....	9
4.1.3 ユーザーアカウント制御 (UAC).....	9
4.1.4 所要時間.....	10
4.1.5 完了.....	11
4.2 アンインストール.....	12
4.2.1 変更.....	12
4.2.2 再インストール.....	12
4.3 ネットワークアクセス.....	13
4.3.1 基本接続.....	13
4.3.2 ファイアウォール例外のチェック.....	13
4.3.3 サービスの確認.....	14
5 データ移行	15

6 OtoAccess® データベース操作方法	21
6.1 画面	21
6.1.1 メニューバーとツールバー	22
6.1.2 サイドパネル	24
6.1.3 被検者と被検者リストの作成.....	24
6.1.4 被検者情報	26
6.1.5 セッションプレビュー	26
6.1.6 セッションリスト	27
6.1.7 詳細.....	28
6.2 管理ツール	29
6.2.1 一般設定	30
6.2.1.1 施設情報	30
6.2.1.2 サービス管理	31
6.2.1.3 環境設定(既定)	31
6.2.1.4 被検者フィールド	32
6.2.1.5 ユーザー定義 被検者フィールド.....	32
6.2.2 ユーザー&グループ	33
6.2.2.1 ユーザー	33
6.2.2.2 グループ	34
6.2.2.3 ユーザー認証	34
6.2.3 データベース.....	36
6.2.3.1 情報.....	36
6.2.3.2 接続.....	37
6.2.3.3 バックアップ&スケジュール	38
6.2.3.4 復元.....	38
6.2.3.5 ログ	39
6.2.3.6 セキュリティーログ	39
6.2.3.7 システムログ.....	40
6.2.3.8 ログ保管期間	40
7 トラブルシューティング	41
7.1 ネットワーク接続の問題.....	41

1 はじめに

1.1 本取扱説明書について

本書は、OtoAccess® データベースに適用されます。

製造元:

OtoAccess A/S
Audiometer Allé 1
5500 Middelfart
Denmark

このたびは、OtoAccess® データベースソフトウェアをご購入いただき、誠にありがとうございます。OtoAccess® データベースは、被検者情報と検査結果を簡単に管理し、検査モジュールを統合できるアプリケーションです。

OtoAccess® データベースは以下の 3 種類の方法で設定できます。

- OtoAccess® データベース サーバー/ネットワーククライアント(非サポート)
- OtoAccess® データベース ネットワーククライアント(非サポート)
- OtoAccess® データベース スタンドアローン

OtoAccess® データベースのクライアントサーバー接続は日本では非サポートです。また、データバックアップについてはユーザーの責任の下、実施してください。データの暗号化などのセキュリティに関する不明な点は、施設内のシステム管理者にお問合せください。

免責事項: 本書に記載されているデータは、すべてランダムに生成されたデモ用のデータです。

1.2 使用目的

OtoAccess® データベースは、被検者情報および検査結果を包括的に管理できるツールです。

OtoAccess® データベースでは、被検者の追加、検査モジュールの起動、検査結果をデータベースに保存する一連の作業をスムーズに実行できます。



2 安全上の注意事項(警告、注意、注記)

被検者情報および検査結果を正しく処理するため、以下の注意事項を遵守してください。

	<p>警告: 被検者／検査者に危険が及ぶ可能性のある状況または行為を示します。</p>
	<p>注意: 機器に損傷が生じる可能性のある状況または行為を示します。</p>
<p>注記</p>	<p>注記: 人身傷害を引き起こすおそれのない使用方法を示します。</p>



クライアント情報がネットワーク伝送中に不正に取得されないように、SQL データベースとの通信はセキュリティーで保護(暗号化)してください。

バックアップしたデータは安全に保管してください。

データベースのデータは定期的にバックアップしてください(例:1週間に1回)。

万一、データが盗まれた場合に悪用されることを避けるためデータを暗号化してください。

PC からネットワークにデータが不正に流出しないよう、適切なウイルスやスパイウェアスキャナーをインストールし、最新の状態を保ってください。不明な点は施設内のシステム管理者にお問合せください。

全ユーザーに固有のログイン認証情報を付与し、データベース内のデータの更新や削除の操作を確実に追跡および特定できるようにしてください。

2.1 通信の安全性

OtoAccess® データベースは、ネットワーク経由でデータベース内のデータの読み取り／書き込みが実行されるクライアントサーバー環境としてインストールできます。(非サポート)

被検者情報がネットワーク伝送中に不正に取得されないように、SQL データベースとの通信はセキュリティーで保護(暗号化)してください。



2.2 バックアップ

OtoAccess® データベースは、各データベースのバックアップを自動で作成します。バックアップのスケジュールやデータ保管に関する設定は、ユーザーのニーズや優先順位に合わせてカスタマイズできます。

ハードウェアの故障などに伴い、データが失われる可能性があるため、バックアップデータを別の安全な場所にコピーしてください。

データの誤用や悪用を防ぐため、バックアップデータを暗号化ボリュームに格納するか、パスワードで保護することを推奨します。

2.3 セキュリティーとデータアクセス

すべてのユーザーに既定でログイン認証情報を個別に付与してください。個々のユーザーと関連付けてすべてのセッションが保存され、各ユーザーのすべての操作がシステムにログで記録されます。

ログイン認証情報を共有したり、パスワードの使用を無効に設定したりすると、セキュリティーおよびログの有効性が大幅に低下します。

Windows ログイン情報を使用してセキュリティーを構築すると、データベースへのアクセスを簡素化かつ高速化できます。この場合は、システム管理者がユーザーのセキュリティー認証情報を関連付ける必要があります。

初期設定では、ログインに 3 回連続して失敗すると、10 分間そのユーザーはログアウトされた状態になります。

ユーザーによるパスワードの変更および、パスワードの強度を設定することが可能です。

初期設定では、パスワードの有効期限はありません。

2.4 認証情報

OtoAccess® データベースの初回起動時には、既定のユーザー名とパスワードを入力するように求められます。

ユーザー名: admin

パスワード: password

アプリケーションへのアクセスを制限する必要がある場合は、admin アカウントのパスワードを変更してください。



3 ハードウェアとソフトウェア要件

3.1 .NET Framework

OtoAccess® データベースのアプリケーションを実行するには .NET 4.5 が必要です。

3.2 Windows PowerShell

Microsoft SQL Server 2014 Express を実行するには Windows PowerShell が必要です。

3.3 ハードディスク

必要なディスク領域は、インストールのオプションによって異なります。

ハードディスクの空き領域は、約 70 ~ 2700 MB は必要です。

3.4 モニター

サポートされる最小の解像度は WXGA (1280x768) です。

OtoAccess® データベースには、フル HD (1920x1080) 以上の解像度を推奨します。

3.5 メモリー

最小 512 MB のメモリーが必要です。メモリー4 GB 以上を推奨します。

3.6 プロセッサー

最低 x86 プロセッサー 1.0 GHz、Intel i5 または AMD A8 以上を推奨します。

最低 x64 プロセッサー 1.4 GHz、Intel i5 または AMD A8 以上を推奨します。

プロセッサータイプ x64: AMD Opteron、AMD Athlon 64、Intel EM64T 搭載の Intel Xeon、
EM64T 搭載の Intel Pentium IV (もしくはそれ以降)

プロセッサータイプ x86: Pentium III 互換プロセッサー (もしくはそれ以上)

3.7 オペレーティングシステム

OtoAccess® データベースは、以下のオペレーティングシステムに対応しています。

Windows 7 SP1 以降

Windows Server 2008 R2 SP1 以降 (非サポート)



3.8 SQL Server

OtoAccess® データベースは、以下のバージョンの Microsoft SQL Server 上で作動します。

SQL Server 2012 (SP1 - SP3) (Express – Enterprise)

SQL Server 2014 (SP1 – SP2) (Express – Enterprise)

SQL Server 2016 (Express – Enterprise)

注記: OtoAccess® データベースを有効にするには Service Broker が必要です。また、アクセスを許可するには、ファイアウォールのルールを設定する必要があります。

3.9 安全な接続

ネットワーク接続を安全に利用するには、SQL Server に証明書をインストールする必要があります。

詳しくは以下を参照してください。

[https://technet.microsoft.com/en-us/library/ms189067\(v=sql.105\).aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/ms189067(v=sql.105).aspx)

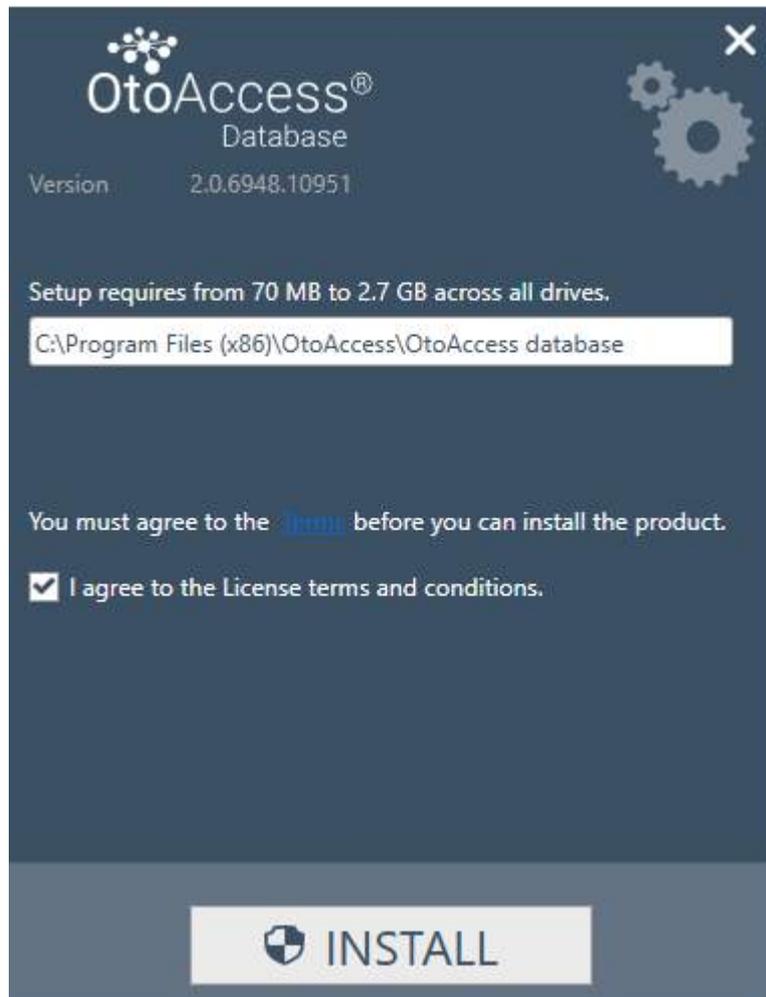
<https://msdn.microsoft.com/en-us/library/ms191192.aspx>



4 インストール

4.1 セットアップ

インストール用メディアから OtoAccess.exe を実行します。



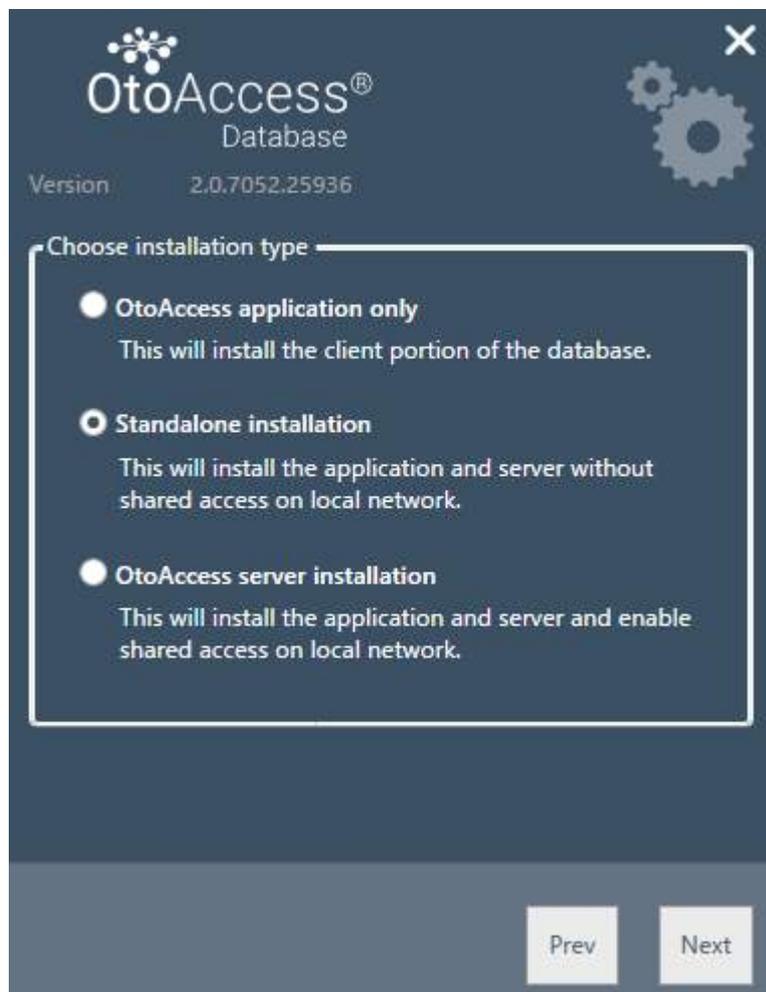
ライセンス契約書を熟読し、「I agree (同意する)」をチェックして次に進みます。

注記:ライセンス条件に同意しないときは、右上の「X」印を押して、アプリケーションを終了してください。



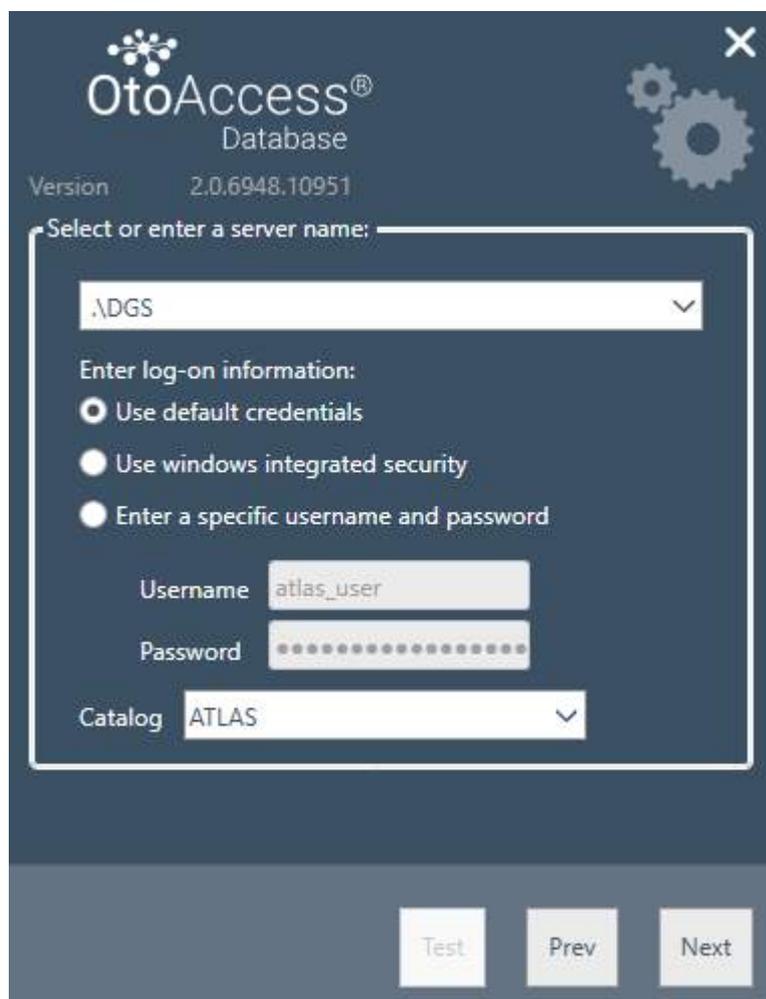
4.1.1 インストールタイプ

OtoAccess® データベースは、スタンドアロンとしてインストールすることも、同一データベースに複数のクライアントがアクセスするネットワーク環境にインストールすることもできます。



4.1.1.1 クライアントのみ

既にサーバーが稼働していて、複数のクライアントで同一のデータベースを使用する場合は、このタイプを選択します。(非サポート)



クライアントのインストールでは、ネットワーク上のサーバーへの接続を設定します。

以下のとおり、サーバー名の後にインスタンス名を入力してください。

[サーバー名] \ [インスタンス名]

既定の OtoAccess® 認証情報を使用するか、Windows などの認証情報を指定します。

Catalog (データベース名)は「ATLAS」が既定で設定されていますが、サーバーが指定している認証情報からも選択できます。

4.1.1.2 スタンドアローン

アプリケーションをローカル PC で使用し、データベースを共有して利用しない場合は、このインストールタイプを選択します。

注記: SQL Server 2014 が既に存在している場合、インストールされたアプリケーションはそれを再利用し、以前にインストールされたインスタンスから設定を継承します。つまり、サーバーまたはスタンドアローンのインストールタイプを選択すると、既存のサーバー設定は変更されません。



4.1.1.3 サーバー

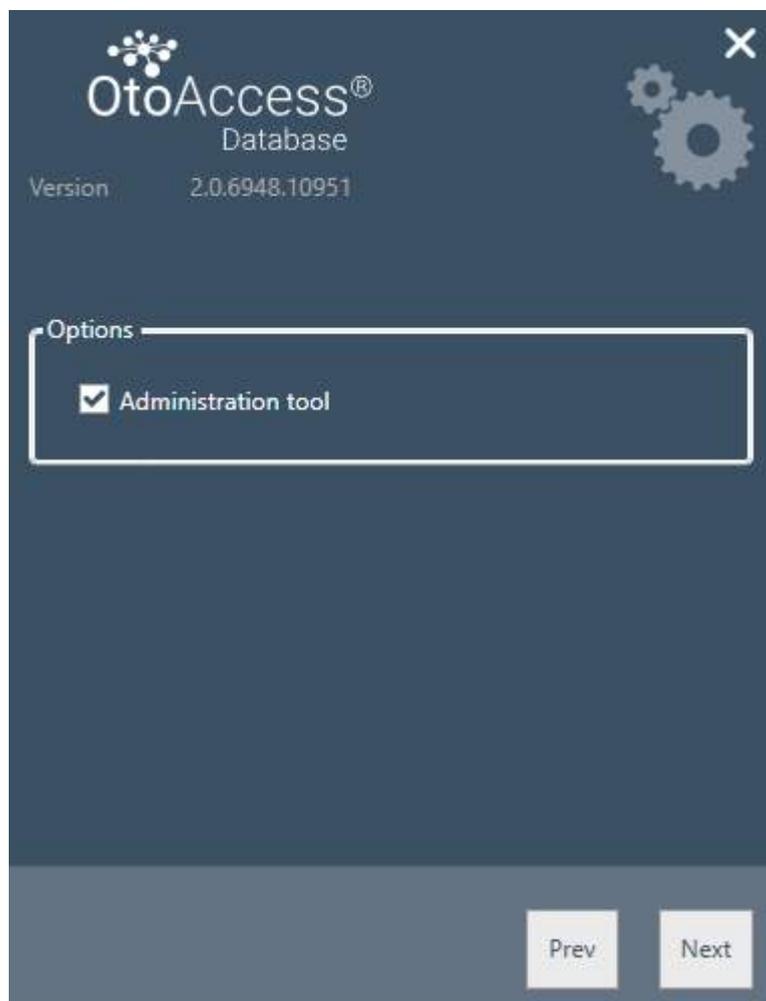
複数のクライアントで共有されるデータベースを設定する場合は、このインストールタイプを選択します。
(非サポート)

注記: SQL Server 2014 が既に存在している場合、インストールされたアプリケーションはそれを再利用し、以前にインストールされたインスタンスから設定を継承します。つまり、サーバーまたはスタンドアローンのインストールタイプを選択すると、既存のサーバー設定は変更されません。

4.1.2 データベース管理

OtoAccess® データベースの管理ツールはオプションです。

ユーザーの追加、ログの確認、バックアップの実行などのシステム管理に必要です。



4.1.3 ユーザーアカウント制御 (UAC)

管理オプションにチェックして「Next (次へ)」を押すと、システムへのアクセスをユーザーに許可するための画面が表示されます。

「NO (いいえ)」を選択すると、インストールが中止されます。



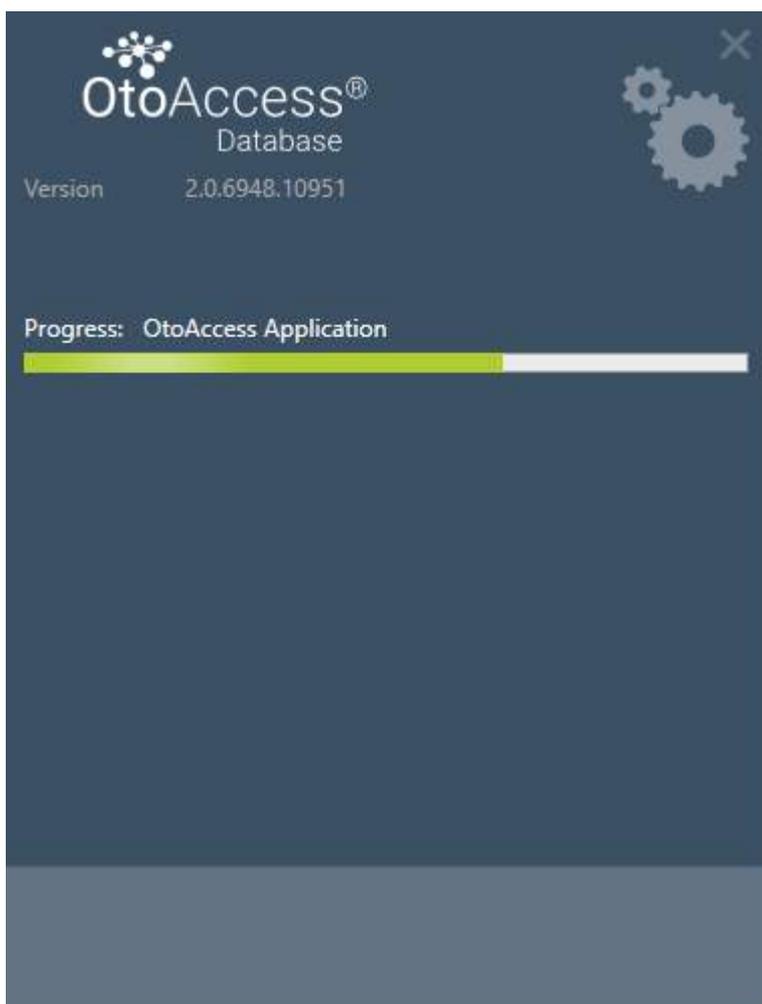
4.1.4 所要時間

インストールを実行すると、.NET Framework、SQL Server、および OtoAccess® データベースのアプリケーションがインストールされます。

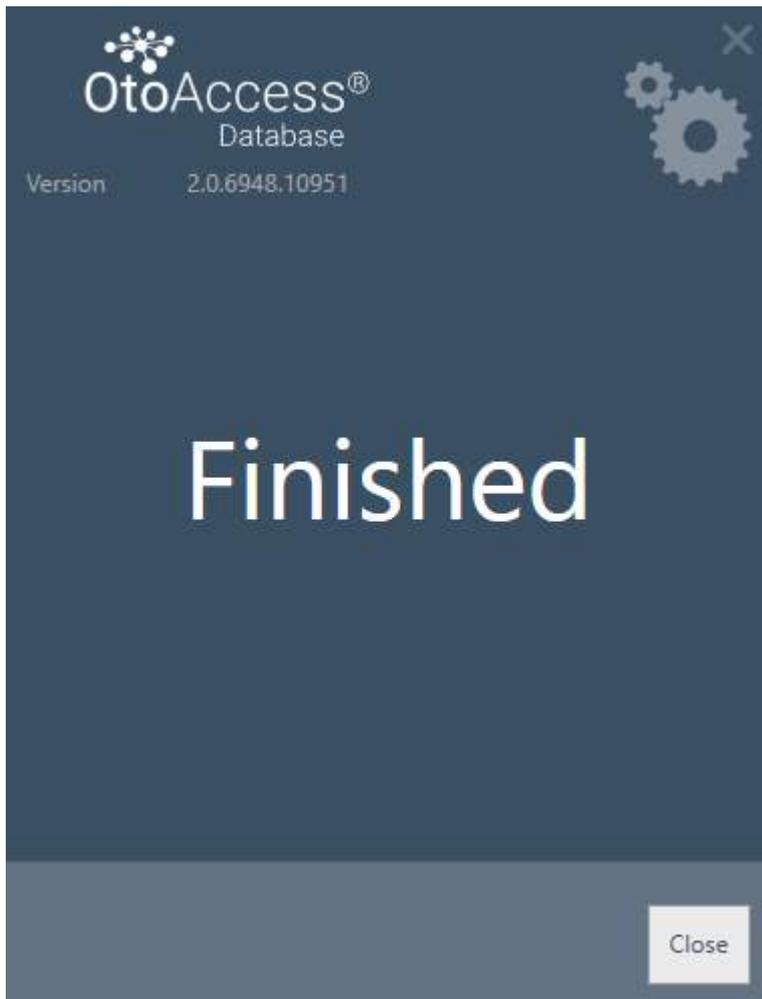
インストールの所要時間は、既存のコンポーネントおよび PC の更新頻度により異なります。

コンポーネントごとの予想所要時間は以下のとおりです。

- 1) .NET 4.5 Framework 約 4 分(再起動が必要な場合もあります)
※Windows 8 以降の OS は、.NET Framework が既にインストールされています。
- 2) SQL Server 約 12 分(再起動が必要な場合もあります)
- 3) OtoAccess® データベース アプリケーション 約 2 分



4.1.5 完了

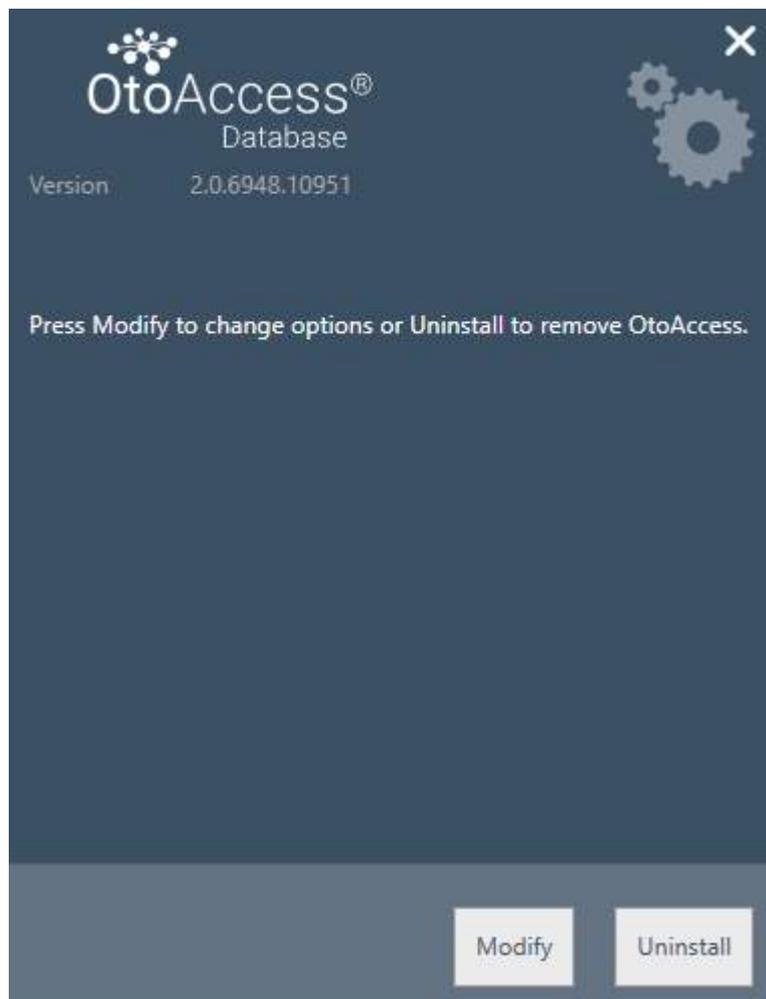


4.2 アンインストール

OtoAccess® データベースを削除するには、「プログラムと機能」から OtoAccess® データベースを選択し、「アンインストール」を選択します。

アプリケーションを削除すると OtoAccess® データベースがアンインストールされますが、SQL Server などの共通コンポーネント、データベース、およびすべてのユーザー生成ファイルを含む .NET Framework は残ります。

SQL Server を削除するには、「プログラムと機能」からアンインストールします。



4.2.1 変更

インストールに変更を加えるには、「Modify (変更)」を押します。前回のインストールに対して管理ツールを追加したり、削除したりできます。

4.2.2 再インストール

OtoAccess® データベースを再インストールする場合は、インストール用のメディアから OtoAccess.exe を実行します。アプリケーションがまだ存在している場合は、インストールが中止されます。

スタンドアロンまたはサーバーの場合、インストール時に既存の SQL Server が検出され、空のデータベースの新規作成前に、バックアップが実行されます。



4.3 ネットワークアクセス

既定の設定では、サーバーのインストールはネットワーク上で周知され、他のクライアントがその PC に接続できることを許可します。

サーバーの問題を診断およびトラブルシューティングするにあたり、以下のヒントが役立つ場合があります。

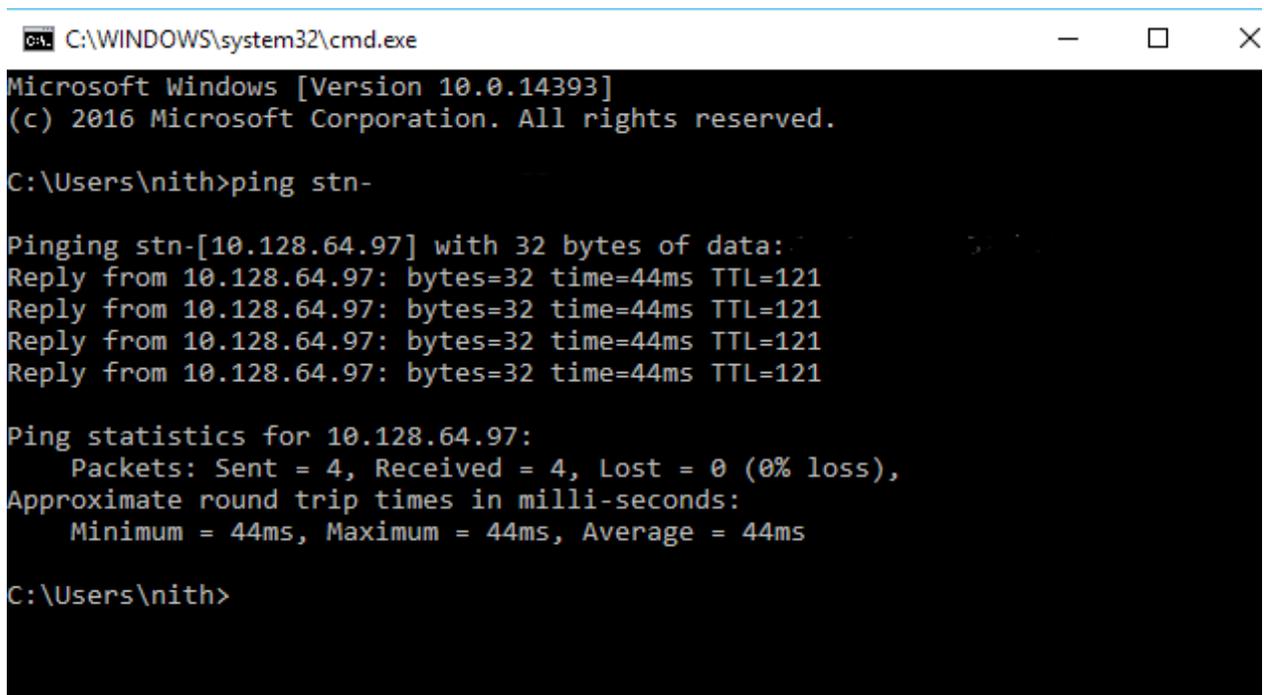
(非サポート)

4.3.1 基本接続

クライアントとサーバー間の基本的な接続状態を確認してください。

Windows + R キーを押し、CMD と入力します。

コマンドプロンプトで ping [マシンの名前] と入力します。



```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 10.0.14393]
(c) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\nith>ping stn-

Pinging stn-[10.128.64.97] with 32 bytes of data:
Reply from 10.128.64.97: bytes=32 time=44ms TTL=121

Ping statistics for 10.128.64.97:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 44ms, Maximum = 44ms, Average = 44ms

C:\Users\nith>
```

4.3.2 ファイアウォール例外のチェック

ファイアウォールが SQL Server へのアクセスを許可していることを確認します。

Windows + R キーを押し、firewall.cpl と入力します。

「Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する」を選択します。

「別のプログラムの許可...」を選択します。

ファイアウォールを介して許可したい SQL Server インスタンスの場所 (例: C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL13.<インスタンス名>\MSSQL\Binn) に移動し、sqlservr.exe を選択して実行します。

「OK」をクリックします。

以下の場所にある SQL Browser サービスについても同様に操作します。

C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\90\Shared\sqlbrowser.exe



ポートとプロトコルのリストは以下のとおりです。

UDP 1434 (SQL Browser サービス)

TCP 1433 (SQL の既定のインスタンス)

TCP * (SQL Server の名前付きインスタンス – ポートはサービス開始時に決定されます)

TCP 4022 (Service Broker)

詳細は以下を参照してください。

<https://msdn.microsoft.com/en-us/library/cc646023.aspx>

4.3.3 サービスの確認

関連するサービスがすべて開始されていることを確認します。

Windows + R キーを押し、services.msc と入力します。

以下のサービスが開始されている必要があります。

OtoAccess® Service

SQL Server (DGS)

SQL Server Browser

SQL Management Studio を使用して以下のサービスを確認します。

```
SELECT is_broker_enabled FROM sys.databases WHERE name = 'ATLAS';
```



5 データ移行

OtoAccess® v1.x のデータを新しい OtoAccess® データベースで使用する必要がある場合、データの移行がインストール後の最初の作業になります。(OtoAccess® データベースは OtoAccess® v1.x の後継製品です)

1. OtoAccess® データベースのインストールフォルダーに移動し、Merge.exe を実行します。
(例:OS x64 の既定のインストールフォルダーは「C:\Program Files (x86)\OtoAccess\Atlas」)
2. OtoAccess® データベースの Merge (マージ)アプリケーションが起動します。

OtoAccess Database Merge

データベースのマージ

アプリケーションは OtoAccess V 1.x データベースと OtoAccess V 2 データベースをにしています。マージプロセスが開始される前に、ソースおよび宛先をバックアップすることを強くお勧めします。マージの競合が発生した場合は、お使いのデータを回復することができます。

開始前に次の情報を収集します。

1. ソースデータベースへのアクセス認証情報 - OtoAccess V 1
2. 移行先データベースへのアクセス認証情報 - OtoAccess V 2

マージオプション

ソースマスター

一致するセッションを上書きしない (S)

被検者の人口統計情報を上書きしない (D)

移行先マスター

被検者の一致

被検者 ID のみ使用する (I)

姓、名、生年月日、被検者 ID (I) のすべてを使用してください。

次へ



3. 表示される画面に手順が示されます。
各手順を熟読し、目的に適合したマージオプションを選択してください。
 - 「ソースマスター」 – OtoAccess® v1.x がマージ処理のマスターとなります。
 - 移行先に存在しない被検者およびセッションを移行先にコピーします。
 - 移行先にある既存の被検者およびセッションを上書きします。
 - 移行先の被検者に属するセッションを上書きしたくない場合は、「一致するセッションを上書きしない」を選択します。
 - 移行先の被検者に属する被検者情報を上書きしたくない場合は、「被検者の人口統計情報を上書きしない」を選択します。
 - 「移行先マスター」 – OtoAccess® データベースがマージ処理のマスターとなります。
 - 移行先に存在しない被検者およびセッションは移行先にコピーしません。
 - 移行先にある既存の被検者およびセッションは上書きしません。
 - 一致する被検者が存在した場合は、その被検者にまだ属していない新しいセッションのみをコピーします。
4. その他のデータは以下のとおり移行します。
 - 施設情報
 - 移行先の施設情報がインストール時の初期設定のままの場合、ソース(コピー元)の施設情報で上書きされます。
 - 移行先の施設名とソース(コピー元)の施設名が一致する場合、ソース(コピー元)の施設情報で上書きされます。(ソースがマスターの場合)
 - ユーザー/検査者情報
 - 存在しないユーザー/検査者の情報をすべて移行先にコピーします。既存のユーザー/検査者の情報は上書きしません。姓、名、およびイニシャルの組み合わせでユーザー/検査者を識別します。
5. 「被検者の一致」でソース(コピー元)と移行先で被検者を識別する方法を選択します。
6. 「次へ」をクリックします。
7. ソース(コピー元)データベース (OtoAccess® v1.x) にアクセスするための認証情報を入力します。接続テストを実行して接続確認してください。接続のステータスは画面上部に表示されます。ローカルのOtoAccess® v1.x には、既定の認証情報でアクセスできます。



OtoAccess Database Merge

ソースデータベース (切断)

サーバー名の選択/入力:

.¥IA

ログイン情報の入力:

既定の認証情報を使用する

Windows 統合セキュリティを使用する

特定のユーザー名とパスワードの入力

ユーザー名: sa

パスワード: ●●●●●●●●

データベース名の選択:

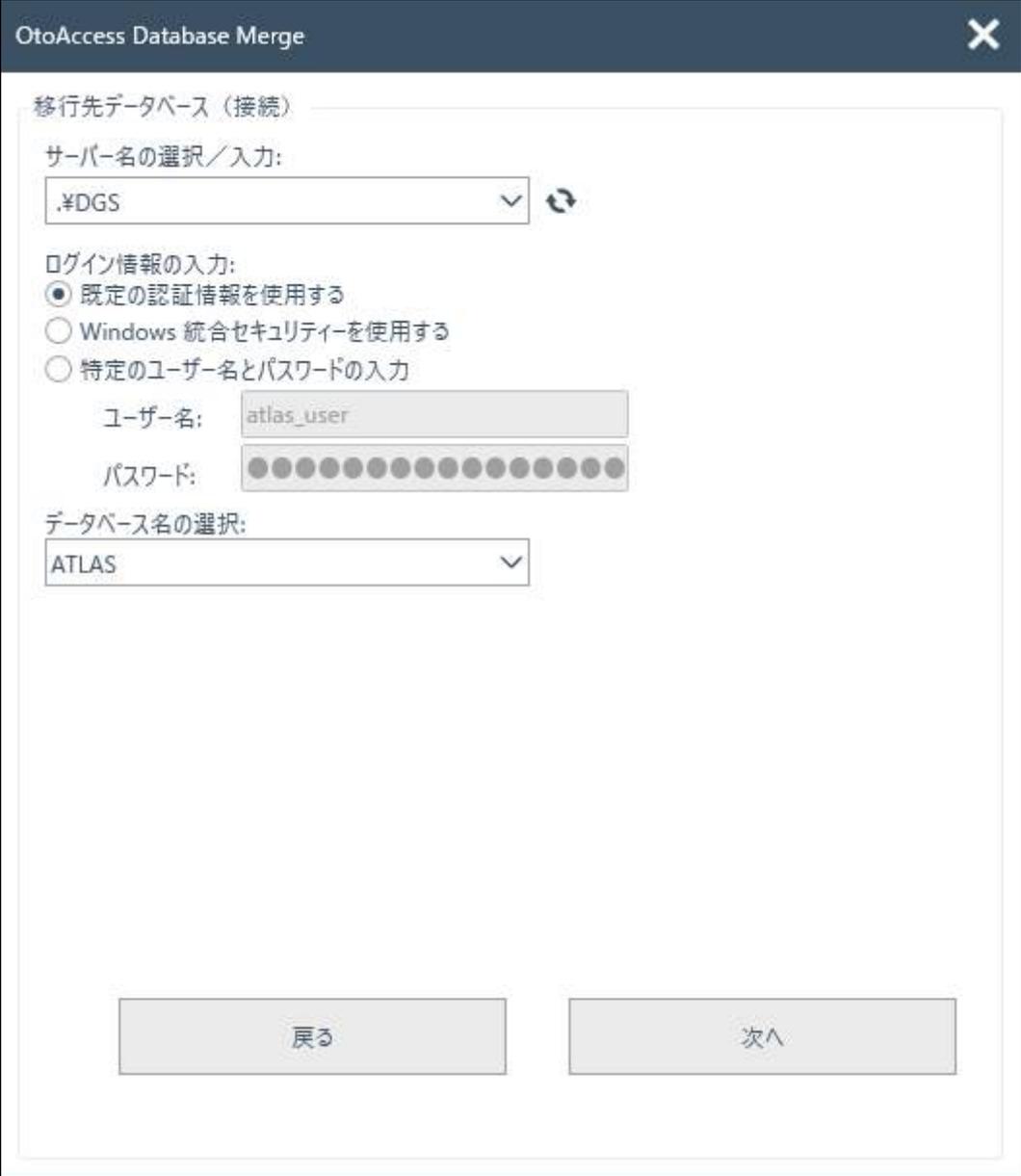
MIA

戻る

接続テスト

- 「接続テスト」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 移行先データベース (OtoAccess® データベース) にアクセスするための認証情報を入力します。接続テストを実行して接続確認してください。接続のステータスは画面上部に表示されます。ローカルの OtoAccess® データベースには、既定の認証情報でアクセスできます。





OtoAccess Database Merge

移行先データベース (接続)

サーバー名の選択/入力:
.¥DGS

ログイン情報の入力:
 既定の認証情報を使用する
 Windows 統合セキュリティを使用する
 特定のユーザー名とパスワードの入力

ユーザー名: atlas_user

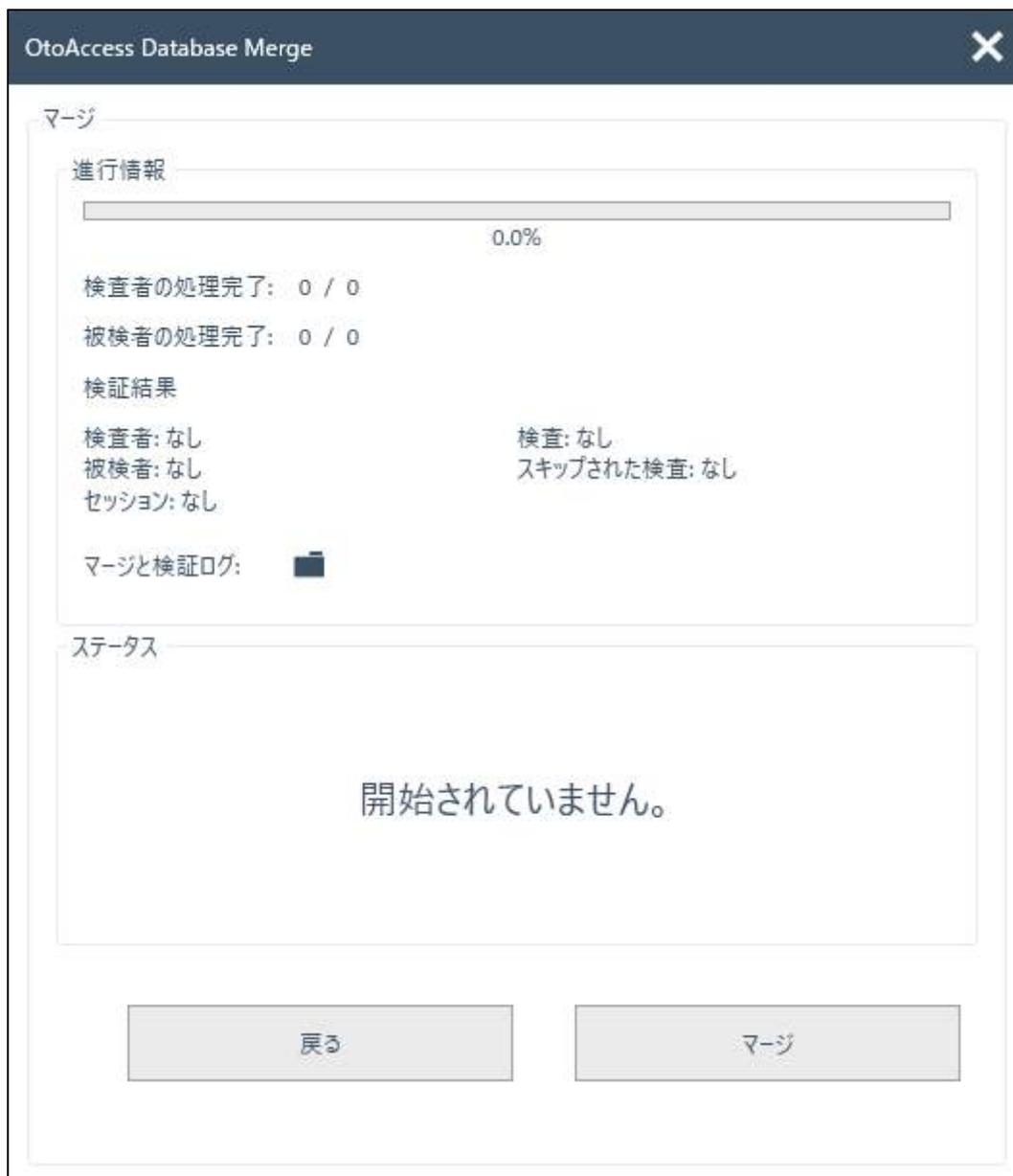
パスワード: ●●●●●●●●●●●●

データベース名の選択:
ATLAS

戻る 次へ

10. 「接続テスト」をクリックし、「次へ」をクリックします。
11. ステータスがマージ処理準備完了になります。「マージ」ボタンをクリックします。データベースのマージ処理が完了するまでお待ちください。進捗バーに現在の状況が示されます。マージ処理のステータスは、「開始されていません」、「開始」「処理中...」、「完了」の順に変わっていきます。





12. 進捗状況(進行情報)が100%に達し、マージ処理のステータスが「完了」になったら、マージ処理は終了です。
13. 上画面に表示される「検査者の処理完了」、「被検者の処理完了」、「検証結果」を確認してください。1つでも「失敗」がある場合、ステータスがインポートされ、マージ時のログの詳細を解析します。マージ時のログはフォルダーのアイコンをクリックすると開きます。



OtoAccess Database Merge ✕

マージ

進行情報

 100.0%

検査者の処理完了: 1 / 1
被検者の処理完了: 202 / 202

検証結果

検査者: パス	検査: パス
被検者: パス	スキップされた検査: パス
セッション: パス	

マージと検証ログ: 

ステータス

完了

戻る 閉じる

終了時にステータスが「停止」と表示された場合は、マージと検証のログでより詳細な情報を確認してください。



6 OtoAccess® データベース操作方法

6.1 画面

メイン画面は、メニューバー、ツールバー、サイドパネル、被検者リスト、被検者情報、セッションリスト、および情報バーから構成されます。



メニューバーにヘルプアイコン  があります。このアイコンをクリックすると、取扱説明書(「説明ガイド」アイコン)にアクセスできます。

情報バーの右下で言語を変更できます。「言語の選択」アイコン  をクリックすると、プルダウンリストが表示されます。言語を変更した場合、変更を有効にするには、OtoAccess® データベースを再起動する必要があります。



6.1.1 メニューバーとツールバー

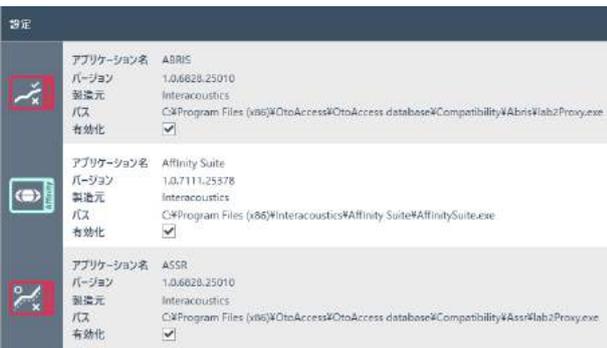
メニューバーには「モジュール」、「設定」、「ファイル」、および「ヘルプ」の項目があります。

ツールバーの項目は、選択されたメニュー項目に応じて変わります。ツールバーから目的の機能を選択します。

モジュール	
	<p>「モジュール」メニューを選択すると、ツールバーにはインストール済みのモジュールが表示されます。</p> <p>クリックすると、そのモジュールが起動します。</p>

設定	
	<p>「設定」メニューでは、以下の操作を行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスワード変更 ・ライセンスの表示／更新 ・モジュールの表示／非表示。 <p>新しいパスワードを設定するには、「パスワードの変更」を選択します。</p> <p>以下の別画面が表示されます。</p> <div data-bbox="946 1104 1286 1585" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center; background-color: #333; color: white; padding: 5px;">パスワードの変更</p> <p>古いパスワード <input type="text"/></p> <p>新しいパスワード <input type="text"/></p> <p>新しいパスワードの確認 <input type="text"/></p> <p style="text-align: center;"> <input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル (C)"/> </p> </div> <p>はじめに、古いパスワードを入力します。次に新しいパスワードを入力し、3番目のテキストボックスに確認のために新しいパスワードを再入力してください。変更を確定するときは「OK」、中止するときは「キャンセル」を押します。</p>



	<p>「ライセンス」を選択すると、ライセンスマネージャーが表示され、現在有効なライセンス情報を確認したり、オンライン状態で新しいライセンスを有効にしたりすることができます。新しいプロダクトキーを入力した後、「適用」を押して入力した情報を確認して、ライセンスを有効にします。</p>
	<p>「モジュール設定」を選択するとバージョン、製造元、ファイルパスなど、インストール済みのモジュールに関する情報が表示されます。</p> <p>各モジュールの表示(有効化)／非表示を設定できます。</p>

<p>ファイル</p> 	<p>「ファイル」を選択すると、以下の2つのオプションがツールバーに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 被検者のインポート: 被検者のデータをファイルからインポートします。 ● 被検者のエクスポート: 被検者のデータおよびセッションをファイルにエクスポートします。被検者を選択しなければ「被検者エクスポート」のアイコンは有効になりません。 <p>エクスポート機能を選択すると、ファイル名と場所を選択する別画面が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 被検者を暗号化ファイルにエクスポートしたい場合は、「*.Oto」を選択します。このファイルはOtoAccess® データベースのアプリケーションでのみ使用できます。 ● ファイルを共有したい場合は、「*.xml」または「.json」を選択します。
---	--



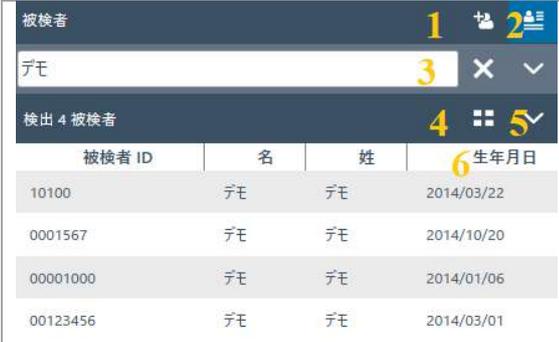
ヘルプ	
? ヘルプ (H)	「ヘルプ」では、「説明ガイド」から OtoAccess® データベースの取扱説明書を参照したり、「情報」からバージョン情報を表示したりできます。
 説明ガイド  情報	

6.1.2 サイドパネル

サイドパネルでは、被検者表示 、またはセッション表示  を選択できます。被検者表示では、被検者リストおよび各被検者のセッションを表示できます。セッション表示では、データベース内のすべての被検者に属する全セッションのリストが表示されます。

6.1.3 被検者と被検者リストの作成

被検者リストには、OtoAccess® データベース で作成された被検者が表示されます。本リストから、被検者を新規に追加したり、データを変更したり、被検者を検索したりできます。

 <p>1. 新規被検者を追加します。 2. 被検者の詳細情報を表示するか、セッションの詳細情報を表示するかを切り替えます。 3. 検索条件を入力します。 4. 被検者情報をグリッド表示するか、複合表示するかを切り替えます。 5. 表示する被検者情報の項目を選択します。 6. ソート順を切り替えます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新規被検者を追加します。 2. 被検者の詳細情報を表示するか、セッションの詳細情報を表示するかを切り替えます。 3. 検索条件を入力します。 4. 被検者情報をグリッド表示するか、複合表示するかを切り替えます。 5. 表示する被検者情報の項目を選択します。 6. ソート順を切り替えます。
--	--

グリッド表示アイコン  を選択すると、すべての被検者のリスト表示がグリッド表示になります。

被検者 ID	名	姓	生年月日
--------	---	---	------

複合表示アイコン  を選択すると、被検者情報すべてがそれぞれの列ではなく、1つの列に結合して表示されます。複合表示では、姓、名など特定のフィールドでソートする機能は使用できません。

被検者 ID	120778-2354
名	Paul
姓	Hansson
生年月日	2019/12/07

リスト表示アイコンの横にある下矢印  を選択すると、リストに表示させる項目を設定できます。プルダウンリストにすべての項目が表示されます。チェックの付いている項目が被検者リストに表示されます。

被検者 ID	<input checked="" type="checkbox"/>
名	<input checked="" type="checkbox"/>
姓	<input checked="" type="checkbox"/>
生年月日	<input checked="" type="checkbox"/>



被検者を検索するには、被検者リストの上にある検索入力フィールドを使用します。検索項目は、被検者 ID、姓、名、および生年月日です。



検索入力フィールドに検索する文字列を入力し、**Enter** キーまたは**検索**アイコンを押します。

被検者に関して何らかの新しい情報を入力する場合、その新しい情報に対応する被検者を被検者リストで検索し、選択された被検者に保存されている情報を適宜更新します。新しい情報を適用する被検者が複数表示された場合は、該当する正しい被検者を選択してください。更新された情報は、「被検者情報」セクションに表示されます。

被検者リスト全体を再度表示するには、検索アイコンの場所に表示される **X** 印をクリックします。

被検者の詳細な検索を実行するには、検索フィールド内をクリックします。下矢印 **▼** が表示されます。その矢印を押すと、詳細な検索条件を選択できるリストが表示されます。



項目を選択すると、その横にチェックマークが付き、検索項目が検索入力フィールドの下に表示されます。これでフィールドが編集できるようになります。横の **X** 印を選択すると、検索項目の指定が解除されます。

被検者を新規で作成するには、被検者リストの上にある追加アイコン **+** をクリックし、空の被検者入力画面を開きます。



新規の被検者入力画面は、被検者の画像、被検者に関する基本情報と詳細情報から構成されています。画像の下の領域には、被検者に追加できる詳細な情報が含まれています。

被検者の基本情報と詳細情報は両方とも、設定でカスタマイズできます。これらの項目の設定に関する詳細は、OtoAccess® データベース管理ツールの章を参照してください。

被検者の画像を追加するには、追加アイコン **+** を選択します。別画面が開き、アップロードする画像のファイルを選択できます。画像をドラッグ&ドロップすることもできます。画像のサイズと画質は自動で調整されます。

画像を削除するには、削除アイコン **🗑️** をクリックします。

必須入力フィールドをすべて正しく入力すると、すぐに保存アイコン **💾** を選択できるようになり、入力済みのデータをデータベースに保存できます。変更内容を破棄するには、キャンセルアイコン **X** を選択します。



設定によっては、被検者 ID が重複しないようにする必要があります。
この設定に関する詳細については、管理ツールの章を参照してください。



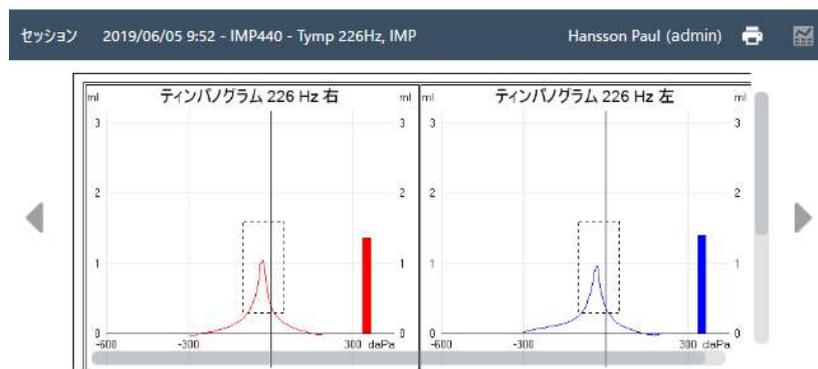
新しく入力された被検者 ID がデータベースにすでに存在する場合、矢印ではなく赤い×印が表示され、被検者 ID の入力フィールドが赤枠で囲まれます。

6.1.4 被検者情報

被検者に関する情報が表示されます。ここでは、被検者の情報を編集、削除、およびコメントの追加が可能です。コメントを追加するには、まず被検者の編集アイコン  を選択します。

6.1.5 セッションプレビュー

被検者リストのセッション情報表示アイコン  をクリックすると、被検者情報表示からセッションプレビューに切り替わります。セッションプレビューでは、対応するモジュールを起動せずに OtoAccess® データベースから直接、セッションのプレビューおよび情報を表示することができます。



補足: プレビュー機能をサポートしていない場合があります。



6.1.6 セッションリスト

被検者情報、および検査結果のセッションプレビューの右のセッションリストには、選択した被検者の検査結果がすべて表示されます。



セッションリストでクリックすると、選択したセッションのプレビューを OtoAccess® データベースで確認できます。ダブルクリックすると、検査モジュールが起動し、セッションが表示されます。

	<p>グリッド表示ではすべてのセッションがリスト形式で表示されます。</p>														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>セッション名</th> <th>作成日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Threshold 4kHz CE-Chir...</td> <td>2012/12/22 12:28</td> </tr> <tr> <td>R85</td> <td>2012/12/22 12:12</td> </tr> </tbody> </table>	セッション名	作成日	Threshold 4kHz CE-Chir...	2012/12/22 12:28	R85	2012/12/22 12:12								
セッション名	作成日														
Threshold 4kHz CE-Chir...	2012/12/22 12:28														
R85	2012/12/22 12:12														
	<p>複合表示では、すべての項目が各列ではなく、被検者ごとに 1 つの列に結合したデータが表示されます。</p>														
	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>セッション名</td> <td>Threshold 4kHz CE-Chirp High Rate</td> </tr> <tr> <td>作成日</td> <td>2012/12/22 12:28</td> </tr> <tr> <td>姓</td> <td>eeee</td> </tr> <tr> <td>名</td> <td>ffff</td> </tr> <tr> <td>更新日</td> <td>2019/06/04 18:13</td> </tr> <tr> <td>検査者</td> <td>Admin</td> </tr> <tr> <td>モジュール</td> <td>EP</td> </tr> </tbody> </table>	セッション名	Threshold 4kHz CE-Chirp High Rate	作成日	2012/12/22 12:28	姓	eeee	名	ffff	更新日	2019/06/04 18:13	検査者	Admin	モジュール	EP
セッション名	Threshold 4kHz CE-Chirp High Rate														
作成日	2012/12/22 12:28														
姓	eeee														
名	ffff														
更新日	2019/06/04 18:13														
検査者	Admin														
モジュール	EP														
	<p>検査モジュールの検査結果を確認するには、関連するセッションを選択してから、「セッションの表示」アイコンを押して対応する検査モジュールを起動します。</p>														
	<p>「セッションの移動」アイコンは、選択した検査結果を別の被検者に割り当てます。複数のセッション(最大 5 件)を選択できます。アイコンを押すと、セッションリストから被検者リストに切り替わり、移動先の被検者を選択できるようになります。検索機能で移動先の被検者を見つけることができます。移動先の被検者を選択して、再度「セッションの移動」アイコン を押すか、キャンセルアイコン を選択して処理を中止します。</p>														
	<p>選択された状態の検査結果(最大 5 件)を削除するには、削除アイコンを押します。</p>														

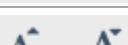


6.1.7 詳細

詳細セクションでは、検査に関するコメントを追加できます。「ドキュメントの編集」アイコン  を選択してコメントを入力します。「ドキュメントの編集」アイコンを選択すると、ツールボックスが表示されます。



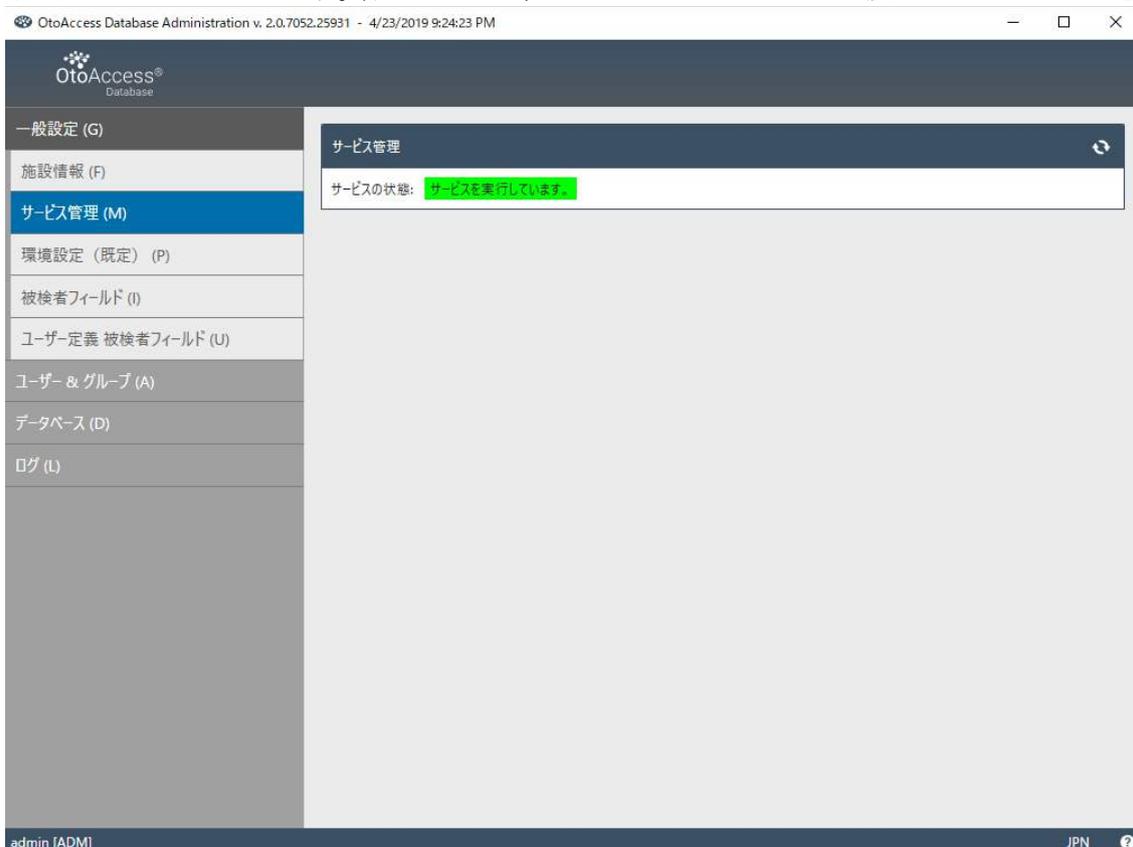
以下に示すように、テキストの編集に役立つさまざまな機能を利用できます。編集した内容は、保存アイコン  を選択して保存できます。編集内容を破棄するには、キャンセルアイコン  を選択します。

	切り取り
	コピー
	貼り付け
	元に戻す／やり直し
	太字／斜体／下線
	フォントサイズの縮小／フォントサイズの拡大
	段落のスタイル(箇条書き／段落番号／左揃え)



6.2 管理ツール

OtoAccess® データベースをインストールすると、OtoAccess® データベースの管理ツールもオプションで選択した場合は同時にインストールされます。管理ツールで、OtoAccess® データベースの設定をカスタマイズできます。



カスタマイズできるのは、被検者情報のユーザー操作環境に関する一般設定、ユーザー管理、ログファイルの表示および管理オプションなどです。

<p>一般設定 (G)</p> <p>ユーザー & グループ (A)</p> <p>データベース (D)</p> <p>ログ (L)</p>	<p>一般設定: 被検者情報および施設情報の操作環境に関するすべての設定。</p>
	<p>ユーザー&グループ: ユーザー管理およびユーザー認証に関するすべての設定。</p>
	<p>データベース: データベースおよびバックアップに関する全般情報と設定。</p>
	<p>ログ: 利用できるすべてのログファイルの設定と確認。</p>



メニューバーにヘルプアイコン  があります。このアイコンをクリックすると、取扱説明書にアクセスできます。

情報バーの右下で言語を変更できます。「言語の選択」アイコン  をクリックすると、プルダウンリストが表示されます。言語を変更した場合、変更を有効にするには OtoAccess® データベースを再起動する必要があります。

補足: OtoAccess® データベースの管理ツールで言語を変更すると、OtoAccess® データベースの言語が自動的に変更されます。

6.2.1 一般設定

一般設定には、ATLAS データベースのカスタマイズオプションがあります。

施設情報 (F)	施設情報: 施設に関する情報の入力。
サービス管理 (M)	サービス管理: データベースに接続するサービスの状態確認。接続の問題がある場合は、サービスの再起動。
環境設定 (既定) (P)	環境設定 (既定): 被検者データベースの初期設定。
被検者フィールド (I)	被検者フィールド: 基本フィールドと補助フィールドの順序の定義。
ユーザー定義 被検者フィールド (U)	ユーザー定義 被検者フィールド: 最大 7 項目までのユーザー定義フィールドの追加。

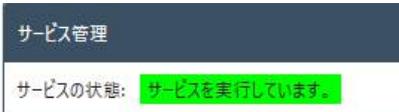
6.2.1.1 施設情報

<div style="background-color: #2c3e50; color: white; padding: 2px 5px; font-weight: bold;">施設情報</div> <div style="background-color: #34495e; padding: 10px; margin-top: 5px;">  <table style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 15%;">施設名</td> <td>ABCD Hospital</td> </tr> <tr> <td>住所</td> <td>住所</td> </tr> <tr> <td>住所 2</td> <td>住所 2</td> </tr> <tr> <td>郵便番号</td> <td>212-0013</td> </tr> <tr> <td>市</td> <td>xxxxx市</td> </tr> <tr> <td>都道府県</td> <td>神奈川県</td> </tr> </table> </div>	施設名	ABCD Hospital	住所	住所	住所 2	住所 2	郵便番号	212-0013	市	xxxxx市	都道府県	神奈川県	<p>編集アイコンを使用して施設情報を編集します。</p> <p>ヘッダー画像を選択するか、追加アイコン  でロゴを追加します。ロゴを削除するには、削除アイコン  を選択します。</p> <p>必要な施設情報をすべて入力したら、右上の施設情報の保存アイコン  をクリックして、編集内容を保存します。</p>
施設名	ABCD Hospital												
住所	住所												
住所 2	住所 2												
郵便番号	212-0013												
市	xxxxx市												
都道府県	神奈川県												



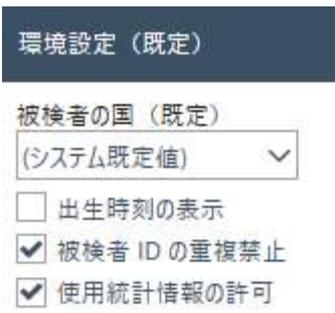
6.2.1.2 サービス管理

OtoAccess® データベースのサービスの状態を示します。

 <p>サービス管理</p> <p>サービスの状態: サービスを実行しています。</p>		<p>サービスの状態:「サービスを実行しています」、「開始中...」、「サービスを停止しました」のいずれかが表示されます。</p> <p>「サービスの再起動」アイコン  でサービス停止後に再起動できます。</p> <p>OtoAccess® データベースが正常に作動するには、「サービスを実行しています」の状態が必須です。</p>
---	--	--

6.2.1.3 環境設定(既定)

被検者フィールドでは、被検者データベースの設定を一部変更できます。設定の変更は自動的に保存されます。

 <p>環境設定 (既定)</p> <p>被検者の国 (既定)</p> <p>(システム既定値) ▼</p> <p><input type="checkbox"/> 出生時刻の表示</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 被検者 ID の重複禁止</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 使用統計情報の許可</p>	<p>被検者の国(既定): 新規作成した被検者の国を既定します。</p> <p>出生時刻の表示: 被検者表示に出生時刻を表示するかどうかを選択できます(乳幼児の場合のみ)。</p> <p>被検者 ID の重複禁止: 被検者 ID の重複を禁止します。複数の被検者で同じ ID を使用できなくなります。</p>
	<p>使用統計情報の許可: ソフトウェアの使用状況を記録できます。記録しておくことで、ソフトウェアの使用状況やワークフローの改善に役立ちます。被検者および施設の情報はログには記録されません。</p>



6.2.1.4 被検者フィールド

「被検者フィールド」を選択し、OtoAccess® データベースに表示される情報を定義します。

環境設定リストは 2 種類あり、左側で被検者情報を、右側で詳細情報を定義できます。



左右矢印を使用して、環境設定リストの項目をもう一方のリストに移動できます。上下矢印を使用して、リスト内のフィールドの順序を変更できます。

「被検者情報」の表では最低 1 個から、最大 10 個までの項目を定義できます。各項目のチェックボックスで、必須フィールドを定義します。

アイコンで、対象の情報を表示 または、非表示 に設定できます。

	<p>「リセット」ボタンを押すと、基本フィールドおよび、補助フィールドを初期設定に戻すことができます。</p>
--	---

6.2.1.5 ユーザー定義 被検者フィールド

<p>ユーザー定義フィールド</p> <ul style="list-style-type: none"> 分類 1 分類 2 分類 3 	<p>データベース内で使用する「ユーザー定義フィールド」を最大 7 項目まで作成できます。フィールドを編集するには、編集アイコンをクリックします。編集した内容を、保存アイコンをクリックして保存します。編集内容を破棄するには、キャンセルアイコンをクリックします。</p> <hr/> <p>補足: ユーザー定義フィールドはテキストボックスのみです。</p>
---	--



6.2.2 ユーザー&グループ

ユーザーの管理は、「ユーザー&グループ」から制御します。

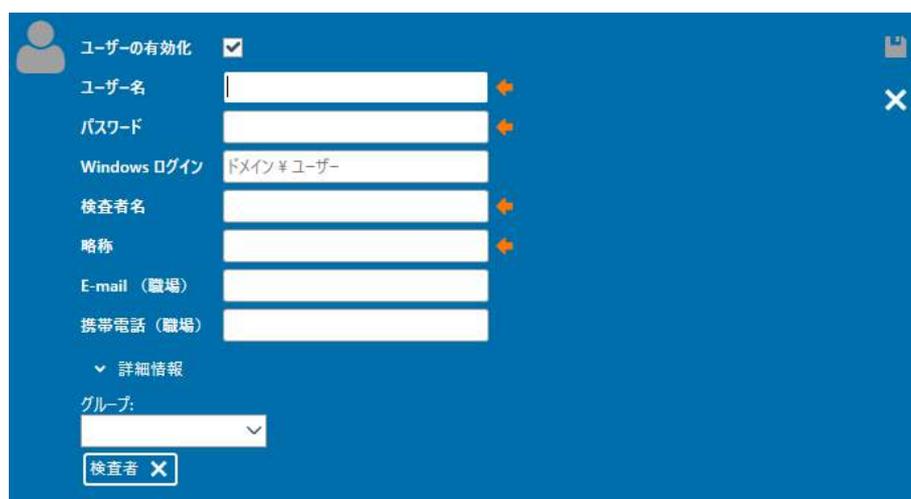
ユーザー & グループ (A)	ユーザー: 現在のユーザーの管理および新規ユーザーの追加。
ユーザー (S)	グループ: ユーザーのグループおよび、さまざまなグループの権限の管理。
グループ (O)	ユーザー認証: ログインに関連する設定の管理。
ユーザー認証 (A)	

6.2.2.1 ユーザー

「ユーザー管理」に、利用できるすべてのユーザーが表示されます。

	<p>リストには、有効(アクティブ)なユーザーと無効なユーザーの両方が含まれます。リストからユーザーを選択すると、そのユーザーに関する詳細な情報が表示されます。ユーザーを選択すると、編集アイコンと削除アイコンも表示されます。</p>
--	--

新規ユーザーを追加するには、右上の「ユーザーの追加」アイコン  をクリックします。新規ユーザーの画面が表示されます。



新規ユーザーの詳細な情報を追加できます。オレンジの矢印が付いている、「ユーザー名」、「パスワード」、「検査者名」、「略称」は必須入力フィールドです。これらのフィールドに入力しないとデータを保存できません。

追加したユーザーを有効にするには、「ユーザーの有効化」にチェックマークを付けます。この項目は初期設定では有効になっています。  をクリックすると、ユーザーの詳細な情報を追加できます。

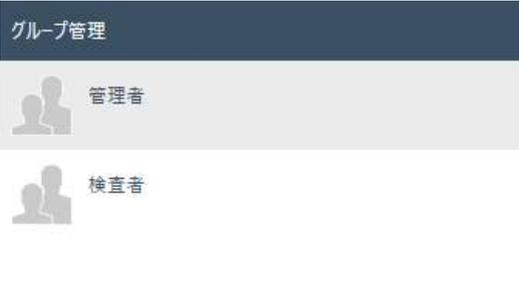
1人のユーザーを複数のグループに追加できます。権限レベルを適用するため、ユーザーを少なくとも1つのグループに割り当てることは重要です。



データをすべて正常に入力すると、保存アイコン  を選択できるようになり、入力済みのデータをデータベースに保存できます。変更内容を破棄するには、キャンセルアイコン  を選択します。

6.2.2.2 グループ

「グループ管理」に、利用できるすべてのグループが表示されます。

	<p>リストからグループを選択すると、そのグループに関する詳細な情報が表示されます。グループを選択すると、編集アイコン  と削除アイコン  も表示されます。</p> <p>グループはシステムで定義されます。「管理者」、「検査者」の2種類です。</p>
---	--

新規グループを追加するには、右上の追加アイコン  をクリックします。新規グループの画面が表示されます。



はじめに、グループ名を入力します。次に、グループメンバーの OtoAccess® データベースの操作に関する権限を割り当てます。必須入力フィールドは、オレンジの矢印が付いている「グループ名」だけです。この項目を入力しないとデータは保存できません。

次に、グループに割り当てる権限を選択します。必要な権限にチェックマークを付けてください。「被検者の読み取り」および「セッションの読み取り」は常に有効になります。

「メンバー」のプルダウンリストからユーザーをグループに割り当てることもできます。この操作は「ユーザー管理」でも可能です（詳細は、「6.2.2.1 ユーザー」を参照してください）。

データをすべて正常に入力すると、保存アイコン  を選択できるようになり、入力済みのデータをデータベースに保存できます。変更内容を破棄するには、キャンセルアイコン  を選択します。

6.2.2.3 ユーザー認証

「ユーザー認証」では、ユーザーログインについて設定します。



<div style="background-color: #2c3e50; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ユーザー認証</div> <p><input type="checkbox"/> Windows ログインを使用する (使用可能な場合のみ)</p> <p><input type="checkbox"/> ログイン時にユーザーリストを表示</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ログイン時にパスワード認証が必要</p> <p>アカウントロックまでのログイン試行回数: <input type="text" value="3"/></p> <p>ロック時間: <input type="text" value="10 分"/></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ユーザーへのパスワード変更の許可</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="checkbox"/> パスワードの強度を上げます。</p> <p>有効期限: <input type="text" value="なし"/></p>	<p>ユーザーへのパスワード変更の許可: この項目にチェックマークを付けると、ユーザーが自分のパスワードを変更できるようになります。</p> <p>パスワードの強度も設定できます。パスワードの強度を設定した場合、新しいパスワードは 6 文字以上で大文字と数字を含むようにする必要があります。パスワードの有効期限を設定すると、その間隔でユーザーにパスワードの変更が要求されます。</p> <hr/> <p>アカウントロックまでのログイン試行回数: ユーザーが正しいパスワードを入力できる回数を設定します。その回数を超えるとアカウントがロックされます。</p> <hr/> <p>ロック時間: アカウントがロックされているときにログインを再開できるようになるまでの時間を設定できます。</p> <hr/> <p>ログイン時にユーザーリストを表示: この項目にチェックマークを付けると、利用できるすべてのユーザーが、リストでログイン画面に表示されます。ログイン時にそのリストからユーザーを選択できます。チェックマークを付けないと、手動でユーザー名を入力する必要があります。</p> <hr/> <p>ログイン時にパスワード認証が必要: ユーザーリストを表示するオプションを有効にすると、パスワードの設定なしでログインできるオプションが有効になります。</p> <hr/> <p>Windows ログインを使用する(使用可能な場合のみ): ユーザーが Windows ログインに基づいて自動ログインできるようにします。本機能を有効にするには、「ユーザー」セクションの「Windows ログイン」フィールドを正しく設定する必要があります。</p>
---	--



6.2.3 データベース

「データベース」では、サーバー名、製品名などの全般的な情報を表示します。バックアップも管理できます。

データベース (D)	情報: 全般的なデータベースおよびバックアップ情報の表示。
情報 (N)	
接続 (C)	接続: サーバーの接続情報の設定。
バックアップ & スケジュール (A)	
復元 (T)	バックアップ & スケジュール: バックアップ実行時のバックアップデータの場所およびスケジュールの定義。
	復元: バックアップからのデータベースの復元。

6.2.3.1 情報

「情報」では、サーバー名、製品名、データベースのエディション、言語、空き領域などの全般的な情報を確認できます。



6.2.3.2 接続

「接続」で設定できる項目は、以下のとおりです。

	<p>サーバー名の選択/入力:</p> <p>サーバー名を入力するか、プルダウンリストから選択します。更新ボタンを押すと、利用可能なサーバーのリストが読み込まれます。</p> <p>形式は [DNS 名 または IP][インスタンス名] で既定の設定は「.\DGS」です。</p>
	<p>ログイン情報の入力:</p> <p>既定の認証情報を設定すると、システムのインストール時に作成されたネイティブの SQL 認証情報が使用されます。</p> <p>Windows 認証情報を使用すると、個々のユーザーのドメインおよび Windows ユーザー認証情報を使用して SQL Server にログインします。このオプションを使用するには、Windows ユーザーが SQL Server にマップされている必要があります。</p> <p>特別な認証情報を使用してサーバーにアクセスする必要がある場合は、特定のユーザー名とパスワードを入力します。</p>
	<p>データベース名の選択:</p> <p>データベース名を選択します。既定の設定は「ATLAS」です。</p>

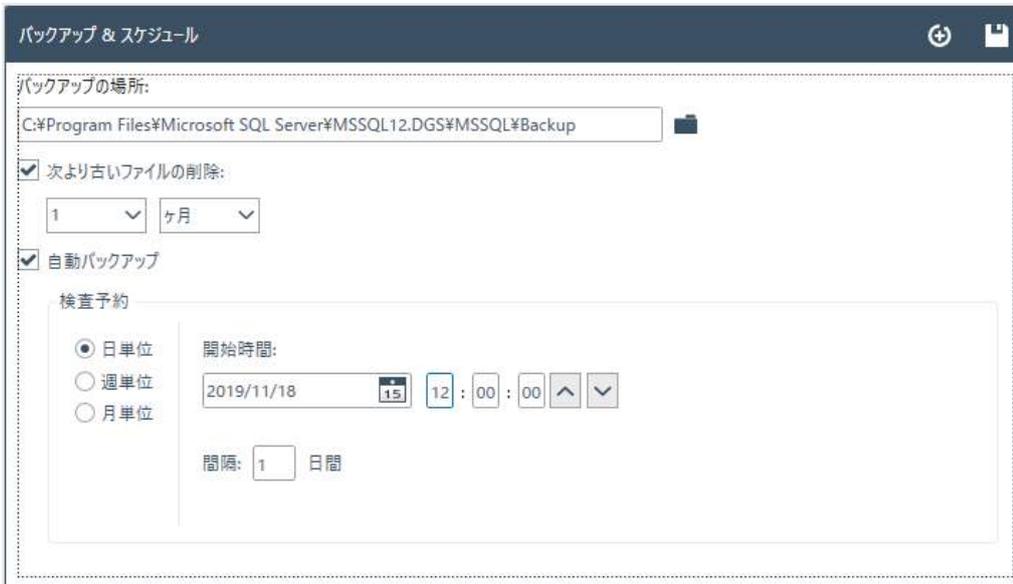
「接続」で設定した情報をテストするには、右上の接続テスト設定アイコン  をクリックします。変更内容を保存するには、保存アイコン  をクリックします。



6.2.3.3 バックアップ&スケジュール

OtoAccess® データベースの管理ツールで定期的なバックアップを実行できます。

補足: バックアップファイルには、被検者データベースと設定の情報が含まれます。

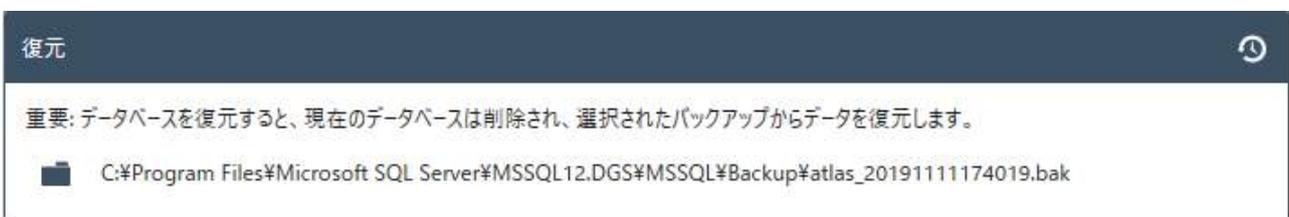


最初にバックアップファイルを保存する場所を選択します。次に、古いバックアップファイルを削除するための、保管期間を設定します。「次より古いファイルの削除:」にチェックを付けて有効にしてください。

バックアップを自動的に保存するには、「自動バックアップ」にチェックを付けて有効にします。バックアップを実行する日時も設定できます。手動でバックアップを実行するには、「今すぐバックアップ」アイコン  をクリックします。左下で、バックアップの成功を確認できます。

6.2.3.4 復元

データベースを復元するにはファイルの選択アイコン  を選択してバックアップファイルの場所を選択します。場所は、ファイルの選択アイコンの後に示されます。復元を開始するには、右上の復元アイコン  をクリックします。



補足: データベースを復元すると、現在のデータベースは削除され、選択されたバックアップファイルからデータを復元します。



6.2.3.5 ログ

「ログ」では、利用できるすべてのログ情報を参照することができます。

<p>ログ (L)</p>	<p>セキュリティーログ: データベースのデータ変更に関する情報を提供します。</p>
<p>セキュリティーログ (T)</p>	<p>システムログ: OtoAccess® データベースのバグや問題の解決に役立つ情報を提供します。</p>
<p>システムログ (Y)</p>	<p>ログ保管期間: ログを保管する期間、およびログをクリーンアップするスクリプトを実行するタイミングを定義します。</p>
<p>ログ保管期間 (R)</p>	

6.2.3.6 セキュリティーログ

「セキュリティーログ」では、特定の操作を実行したユーザーや実行日時がわかります。

<p>セキュリティーログ</p>	<p>更新 : ログ情報の更新。</p>																
<p>20/1083のログエントリを表示しています。</p>	<p>ログの保存 : ログのエクスポート。</p>																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ID</th> <th>日時</th> <th>ユーザー</th> <th>アクション</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2019/06/04 12:00</td> <td>admin</td> <td>作成</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2019/06/04 14:26</td> <td>admin</td> <td>作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2019/06/04 14:26</td> <td>admin</td> <td>読取り</td> </tr> </tbody> </table>	ID	日時	ユーザー	アクション	1	2019/06/04 12:00	admin	作成	2	2019/06/04 14:26	admin	作成	3	2019/06/04 14:26	admin	読取り	<p>ログの削除 : すべてのログ情報の消去。</p>
ID	日時	ユーザー	アクション														
1	2019/06/04 12:00	admin	作成														
2	2019/06/04 14:26	admin	作成														
3	2019/06/04 14:26	admin	読取り														



6.2.3.7 システムログ

「システムログ」では、OtoAccess® データベース関連のアプリケーションによって記録されたイベントを確認できます。本情報は、Windows イベントビューアーを「ATLAS」という名前でたどって確認することもできます。

<p>セキュリティログ</p>	<p> 更新: ログ情報の更新。</p>																
<p>20/1083のログエントリを表示しています。</p>	<p> ログの保存: ログのエクスポート。</p>																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ID</th> <th>日時</th> <th>ユーザー</th> <th>アクション</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2019/06/04 12:00</td> <td>admin</td> <td>作成</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2019/06/04 14:26</td> <td>admin</td> <td>作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2019/06/04 14:26</td> <td>admin</td> <td>読取り</td> </tr> </tbody> </table>	ID	日時	ユーザー	アクション	1	2019/06/04 12:00	admin	作成	2	2019/06/04 14:26	admin	作成	3	2019/06/04 14:26	admin	読取り	<p> ログの削除: すべてのログ情報の消去。</p>
ID	日時	ユーザー	アクション														
1	2019/06/04 12:00	admin	作成														
2	2019/06/04 14:26	admin	作成														
3	2019/06/04 14:26	admin	読取り														

6.2.3.8 ログ保管期間

「ログの保管期間」では、ユーザーが選択した期間、ログを保管するように設定します。既定は1か月です。

<p>ログ保管期間</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 次より古いログエントリの削除:</p> <p>1 月</p> <p>検査予約</p> <p><input checked="" type="radio"/> 日単位 開始時間: 2019/11/11 15:39:37</p> <p><input type="radio"/> 週単位</p> <p><input type="radio"/> 月単位</p> <p>間隔: 1 日間</p>	<p> 保存: ログ保管期間の保存と適用</p> <p>次より古いログエントリの削除: あらかじめ指定した期間を過ぎたファイルを削除します。ハードドライブの領域を節約できます。</p>
---	---



7 トラブルシューティング

7.1 ネットワーク接続の問題

OtoAccess® データベースの使用中に問題が発生した場合は、以下のチェックリストを参照して、最初に調査する領域や手始めに実施する回避策を見定めてください。(非サポート)

- インターネット接続をチェックし、適切に接続されていることを確認します。
- サイト番号および製造元 ID が正しいことを確認します。
- サーバーの URL が正しいことを確認します。
- セキュリティープログラム(ファイアウォール、スパイウェア対策ソフトウェア、アンチウイルスなど)が稼働していることを確認します。それらが OtoAccess® データベース サーバーへの接続をブロックしている可能性があります。
 - 使用中の PC でセキュリティプログラムが実行されているかどうか不明な場合は、施設内のシステム管理者にお問合せください。
- サーバー接続が安定して応答していることを確認します。そうではない場合、施設内のシステム管理者にお問合せください。



記載されている仕様は予告なく変更される場合があります。



【販売元】

ゼロシーセブン株式会社

〒107-0052
東京都港区赤坂 5-4-7 The Hexagon 7F
TEL. 03-3560-7747 FAX. 03-3560-7748
info@0c7.co.jp
http://0c7.co.jp/

※vHIT および VNG/VOG 製品に関するお問合せは
ゼロシーセブン株式会社までお願いします。



【販売元】

Audmet 株式会社
ダイアテックカンパニー

〒212-0013
神奈川県川崎市幸区堀川町580番地
ソリッドスクエア西館16階
TEL. 044-543-0630 FAX. 044-543-0631
info@diatec-japan.com
https://www.diatec-diagnostics.jp/